

## 極小未熟児の身体発育および栄養管理に 関する研究

(分担研究：新生児・乳児の栄養管理に関する研究)

研究協力者 山 口 規 容 子

**要 約：**極小未熟児の栄養管理と身体発育との関係を評価する目的で、当センターで管理した極小未熟児の身体発育状況(身長・体重・頭囲)について追跡した。さらに、身体発育の catch up 状況を AFD( appropriate for dates )児および SFD( Small for dates )児にわけて検討した。

AFD児は、SFD児に比して身体発育の catch up が早く、過半数が修正6カ月までに catch up した。

頭囲発育については、AFD、SFD児ともに体重、身長よりも早く catch up する傾向にあった。

AFD児においては、修正40週の頭囲がその後の身体発育を推測できる可能性を示唆した。

**見出し語：**極小未熟児、身体発育

**研究方法：**当センターで管理した極小未熟児で、修正月齢18カ月以上追跡し得た単胎40例を対象とした。うちAFD24例、SFD16例であった。

発育の評価は、修正40週までは胎児発育曲線、それ以後は乳幼児身体発育パーセンタイル曲線を使用し、それぞれ $-1.5SD$ 、10パーセンタイル以上をもって catch up とした。

**結 果：**

1) 極小未熟児 AFD 児の修正月齢による身体発育(図1)  
過半数が、正常範囲に catch up するのが

6 カ月、以後漸増するパターンである。

2) 極小未熟児 SFD 児の修正月齢による身体発育

頭囲のみ、6 カ月で半数が catch up するが体重、身長は、18 カ月で過半数が catch up する。

3) 極小未熟児 AFD 児の暦年齢における身体発育

6 月から12 カ月の間に急速な catch up がみられる。12 月から18 カ月の間で過半数が catch up する。

4) 極小未熟児 SFD 児の暦年齢における身体発育

A F D に比して劣り、18カ月で25%が catch up するに過ぎない。

5) 極小未熟児 A F D 児における頭囲および体重発育の関連性

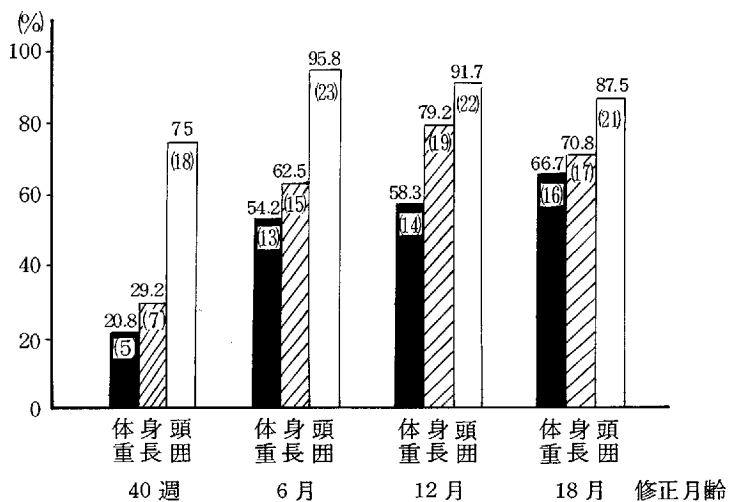
修正40週の頭囲が、その後の身体発育を推測できる可能性を示唆した。

考 察：極小未熟児の身体発育評価に関して、従来の発育曲線を使用する是否については、なお検討の余地がある。適切な極小未熟児の身体発育曲線の作成が望まれる。

図 1 極小未熟児 A F D 児の修正月齢における身体発育の catch up 率

(1984.10月~1988.3月)

( ) : 例数





## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:極小未熟児の栄養管理と身体発育との関係性を評価する目的で、当センターで管理した極小未熟児の身体発育状況(身長・体重・頭囲)について追跡した。さらに、身体発育の catch up 状況を AFD(appropriate for dates)児および SFD(Small for dates)児にわけて検討した。

AFD 児は、SFD 児に比して身体発育の catch up が早く、過半数が修正 6 ヶ月までに catch up した。

頭囲発育については、AFD、SFD 児ともに体重、身長よりも早く catch up する傾向にあった。

AFD 児においては、修正 40 週の頭囲がその後の身体発育を推測できる可能性を示唆した。